

ONKYO®

ステレオカセットテープデッキ

K-SX7

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。


ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

特長	2
オーディオ機器の正しい使いかた	3
カセットテープについて	9
各部の名称	11
接続	13
テープを聞く	16
録音する	21
CDダビング (システム操作)	24
シンクロ録音 (システム操作)	30
故障?と思ったら	34
主な仕様/ 修理について	35
オンキヨーご相談窓口・裏表紙 修理窓口のご案内	

特長

- ハイクオリティ単品設計
- ドルビー[®]B/C NR搭載
- ドルビーHX PRO搭載

* ドルビーノイズリダクション及びHX PROヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX PROはバングアンドオルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号  及びHX PROはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。

付属品

ご使用前に次の付属品がそろっていることを確かめください。

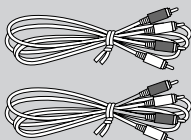
() 内の数字は数量を表わしています。

●オーディオ用ピンコード (2)

●RIケーブル (1)

●取扱説明書 (本書 1)

●保証書 (1)



♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



オーディオ機器の正しい使いかた



■ 故障したままの使用はしない



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

警告

■ 水のかかるところに置かない



水場での
使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



- 本機の通風孔、カセットテープの挿入口などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら



電源プラグをコンセント
から抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた



■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない



- 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘアードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オープン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない



接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



- 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 使用上の注意



指をはさまれない
ように注意

- お子様がかセットトレイに手を入れないようにご注意ください。
けがの原因となることがあります。



- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 点検・工事について



電源プラグをコンセント
から抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をおすすめします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

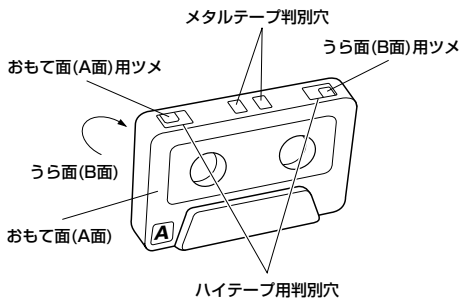


- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

カセットテープについて

■ 誤消去防止用ツメについて

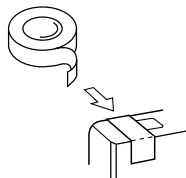
カセットには、大切に保存しておきたい貴重な録音を誤って消してしまわないように、誤消去防止用のツメが付いています。



誤消去を防ぐには
ドライバーなどで
ツメを折る。



再び録音するには
セロハンテープを貼る。
テープの種類を判別する
穴をふさぐとオート
テープセレクト機能
は動きません。



本機はテープをセットするだけで使用するテープの種類を自動的に判別します。(オートテープセクター機能)

■ テープについて

推奨テープ

ノーマルポジション	ハイポジション	メタルポジション
maxell UD 1	maxell UD 2	SONY ES

おすすめできないテープ

C-120以上のテープは薄く、機器内のピンチローラーやキャプスタンに巻き込まれたり、切れたりしてトラブルを起こしやすいので、使用しないでください。また、エンドレステープも故障の原因となりますので使用しないでください。

⚡ ⚡ ご注意

テープの種類判別用穴があいていないテープでは、正しい録音や再生ができないことがあります。

結露について

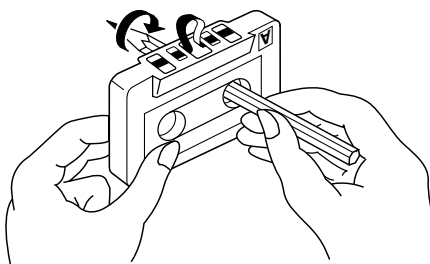
本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりではなく、テープがいたんだり、からみついたりして正常なテープ走行ができなくなることがあります。結露しているおそれがある場合は、電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、カセットテープを取り出しておくことをおすすめします。

カセットテープについて

■ テープがたるんだときは

テープがカセットから飛び出したり、たるんだままでセットすると、テープがキャプスタンとピンチローラーの間に入らず、テープを傷める原因となります。このようなときは、図のように鉛筆をリール軸に差し込み、テープのたるみを直してください。

テープのたるみの直しかた



■ ヘッドのお手入れ

ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーはテープの走行によって汚れやすい部分です。クリアーな音を楽しむために再生、録音の前にヘッドを清掃するよう心がけてください。通常は約10時間ごとに清掃してください。

清掃は市販のヘッドクリーニングカセットをお使いください。詳しくはヘッドクリーニングカセットの取扱説明書を参照してください。

- クリーニングのときは、必ずアンプのボリュームを絞っておいてください。
- 清掃後は、2～3分間テープを装着しないでください。

■ テープの保管について

磁気の影響を受けるところ(スピーカー、アンプ、TVの近くなど)や、直射日光の当たるところには置かないでください。また、テープに直接触れたり、ホコリやゴミが付着しないように、使用後はカセットケースに入れて保管してください。

■ 消磁

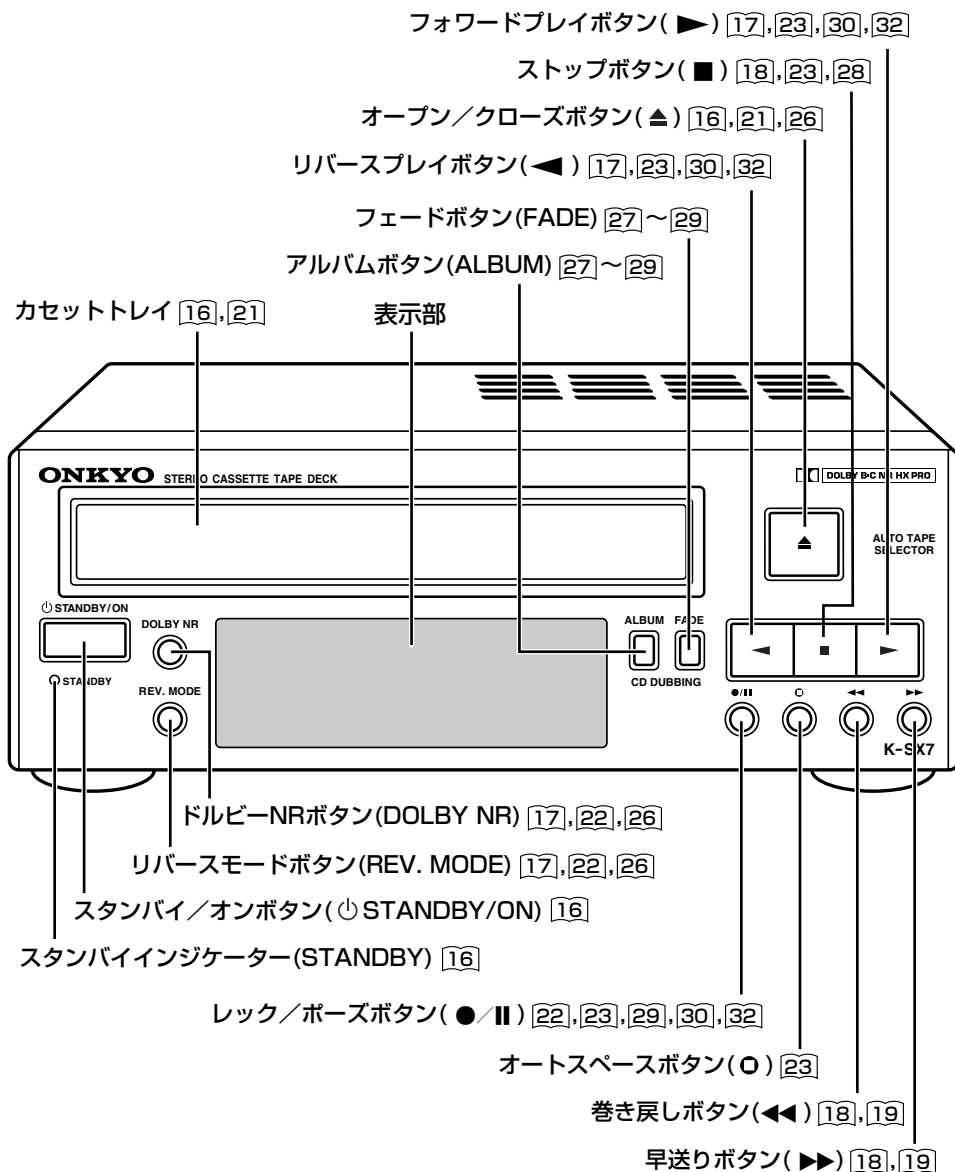
テープデッキを長時間使用するとヘッドに磁気が残留し、大切な録音済みテープに雑音が入ったり、高音域が出なくなります。約50時間ごとに、市販のカセットタイプのヘッドイレーサーで消磁してください。消磁方法はヘッドイレーサーの取扱説明書を参照してください。

- 消磁のときは、必ずアンプのボリュームを絞っておいてください。

各部の名称

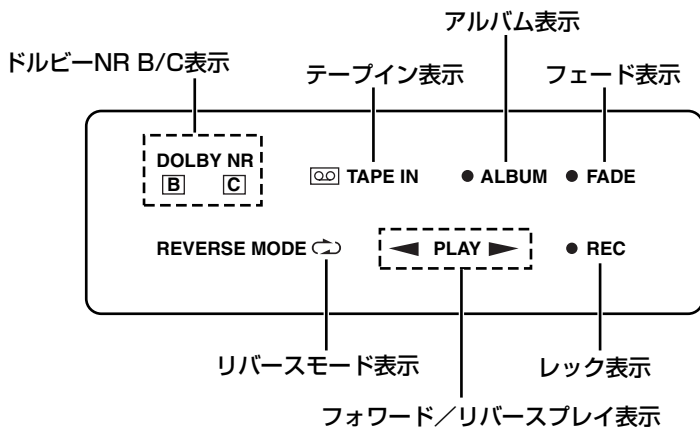
表示は詳しい説明のあるページです。

■前面パネル



各部の名称

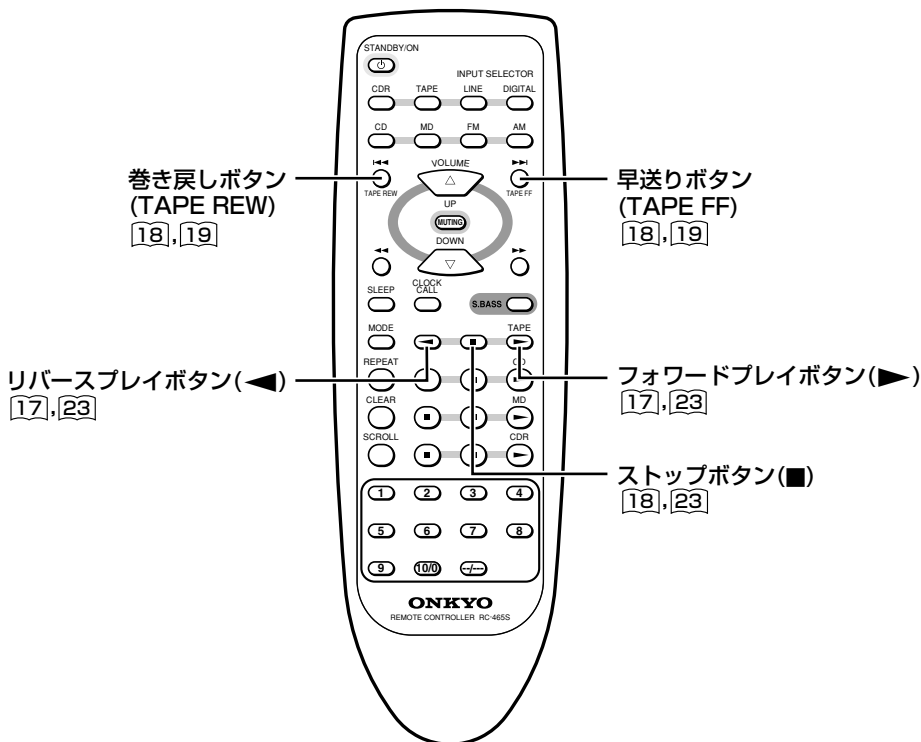
■表示部



■リモコン

FR-X7/X9に付属のリモコン (RC-465S)

●本機には付属していません。



接続

■CD/MDチューナーアンプFR-X7/X9と接続してご使用になる場合
接続のしかたについては、本取扱説明書の14、15ページをご覧ください。

FR-X7/X9と組み合わせてご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン

本機の電源を入れると、FR-X7/X9の電源が自動的に入ります。また、本機を使用しないときは、本機のみ電源をスタンバイにすることができます。

ダイレクトチェンジ

本機のプレイボタン(◀/▶)を押すとFR-X7/X9の入力がTAPEに切り換わりません。

リモコン操作

FR-X7/X9に付属のリモコンで本機を操作することができます。

詳しくはFR-X7/X9の取扱説明書をご覧ください。

タイマー操作

タイマー再生、タイマー録音ができます。

詳しくはFR-X7/X9の取扱説明書をご覧ください。

CDダビング

CDから本機への編集録音をワンタッチで行なうことができます。また、好みの2つのモードを選ぶことができます。

詳しくは本取扱説明書の24~29ページをご覧ください。

CD、MDシンクロ録音

CD、MDからテープへの録音を、CD、MDの再生と同時に行うことができます。

詳しくは本取扱説明書30~33ページをご覧ください。

本機からMDへのシンクロ録音

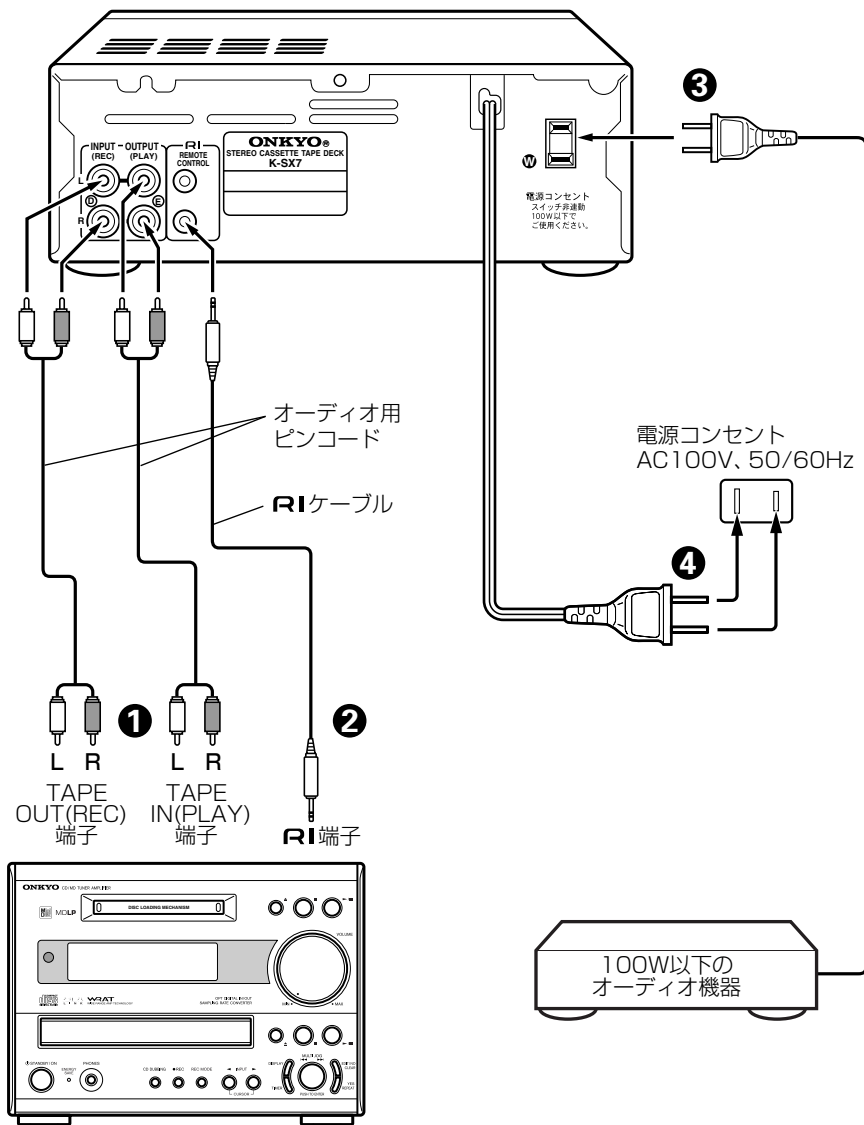
本機からMDへの録音を、本機の再生と同時に行うことができます。

詳しくはFR-X7/X9の取扱説明書をご覧ください。

接続

■他の機器と接続する場合

- すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。



① アンプとの接続

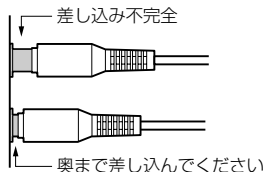
アンプのTAPE端子に本機を接続してください。また、FR-X7/X9へ接続する場合は、機器の端子に印刷されている記号に合わせて①と②、③と④を接続します。

本機に付属のオーディオ用ピンコード(赤、白プラグ付き)を使用し、赤いプラグは[R]側に、白いプラグは[L]側に接続します。

他機L端子へ...白 ← [白プラグ] → 白...本機L端子へ
他機R端子へ...赤 ← [赤プラグ] → 赤...本機R端子へ

ご注意

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、音質低下の原因となります。



② RIケーブルの接続

RI端子付きオンキヨー製品と、本機に付属の**RI**ケーブルを使って、**RI**端子どうしを接続してください。**RI**端子の上下2つの端子の動きは同じです。どちらにでもつなげます。

FR-X7/X9に接続した場合は、以下の機能が使えるようになります。

FR-X7/X9に付属のリモコンで本機を操作できます。

FR-X7/X9の電源と本機の電源が連動します。

本機を再生すると、FR-X7/X9の入力が自動的にTAPEに切り換わります。

システム録音操作ができます。

ご注意

- **RI**端子は、**RI**端子付きオンキヨー製品と組み合わせた場合のみ使用できます。**RI**端子付きオンキヨー製品以外とは接続しないでください。故障の原因となります。
- **RI**端子の接続だけではシステムとして動きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

③ 本機の電源コンセントについて

他のオーディオ機器の電源コードを接続することができます。

ご注意

- スイッチ非連動コンセント(容量100Wまで)は常時通電しています。各機器の裏面などに書いてある電力表示を確認して接続してください。
容量を越える機器は絶対に接続しないでください。
- 溝の長いほう (Ⓜマーク側) が、電源コードの白線側と同じ極性となっています。

④ 電源コードをつなぐ

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

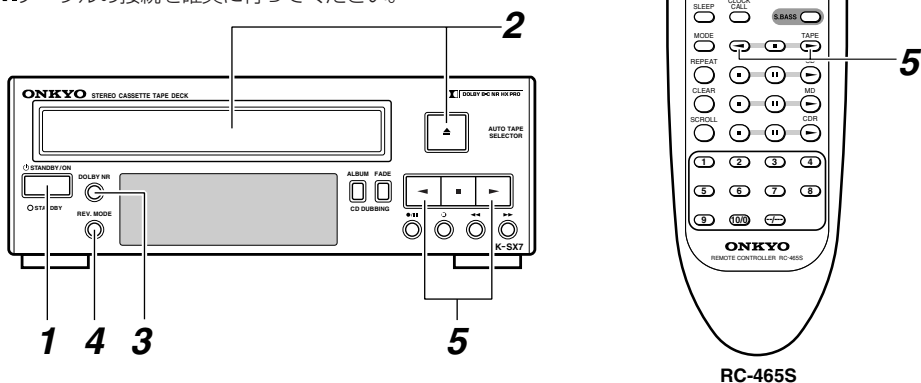
“STANDBY” インジケータが点灯します。

テープを聞く

本取扱説明書では、本機をFR-X7/X9（CD/MDチューナーアンプ）と組み合わせた場合を例に、操作方法を説明しています。

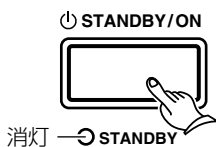
本機にリモコンは付属していませんが、FR-X7/X9（CD/MDチューナーアンプ）に付属のリモコンRC-465Sを使って本機を操作することができます。

●R1ケーブルの接続を確実に行ってください。



リモコンのボタンは  で表示しています。

1



電源を入れる

スタンバイ/オンボタン（STANDBY/ON）を押します。

- スタンバイインジケータ（STANDBY）が消灯し、プレイ表示が点灯します。


2



テープ面を奥側にして、再生する側を上向きにのせる。

カセットを入れる

オープン/クローズボタン（▲）を押してカセットトレイを開きます。

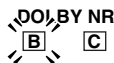
- カセットはテープ面を奥側にして、再生する側（▶）を上向きにのせます。
- オープン/クローズボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることができます。
- カセットを入れるとテープイン表示（) が点灯します。

ご注意

- カセットをのせる方向をまちがえないようにしてください。
- トレイを閉じるときに指をはさまないようにご注意ください。

3

DOLBY NR



ドルビーNRのタイプを選ぶ

ドルビーNRボタン(DOLBY NR)を押すたびに、



の順に表示が切り替わります。

ご注意

再生するテープの録音時の設定に合わせてください。詳しくは、「ドルビーNRについて」(20ページ)を参照してください。

4


REV. MODE



リバースモードを選ぶ

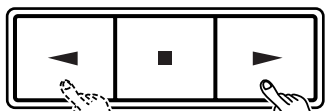
リバースモードボタン (REV. MODE) を押すたびに、リバースモード表示が点灯したり、消灯したりします。

消灯 : 片面を再生して停止します。

 : 両面をくり返し、8往復再生して停止します。

• 詳しくは、「リバースモードについて」(20ページ)を参照してください。

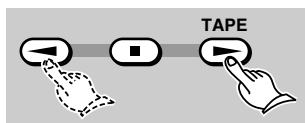
5



リバース

フォワード

本機



リバース

フォワード

リモコン

再生を始める

再生したい方向のプレイボタン(◀または▶)を押します。

• 走行方向のプレイ表示が明るくなります。



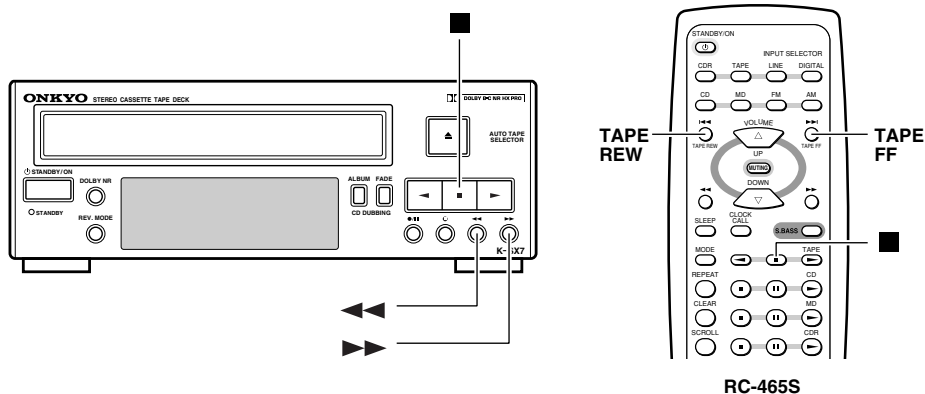
• スタンバイ状態からプレイボタンを押すと電源が入り再生を始めます。

• FR-X7/X9とシステム接続している場合は、FR-X7/X9の電源も入ります。

ご注意

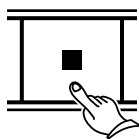
FR-X7/X9の音量があまり大きくなりすぎないように音量調整つまみの位置を確認してください。

テープを聞く

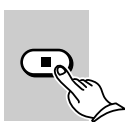


リモコンのボタンは  で表示しています。

■ 再生を中止する



本機



リモコン

再生中にストップボタン (■) を押すと、再生が停止します。

- 走行方向のプレイ表示が少し暗くなります。



■ 早送り、巻き戻しをする



本機



リモコン

停止中に  ボタン (またはTAPE FFボタン) を押すと右方向に早送りします。  ボタン (またはTAPE REWボタン) を押すと左方向に早送りします。

- 途中で停止させたいときは、ストップボタンを押してください。

■ 前後の曲の頭出しをする

再生中の曲の頭に戻りたいときは

フォワード再生中 (▶)

リバース再生中 (◀)



本機



リモコン



本機



リモコン

次の曲の頭出しをするには

フォワード再生中 (▶)

リバース再生中 (◀)



本機



リモコン



本機



リモコン

- 再生中に▶▶ボタン（またはTAPE FFボタン）あるいは◀◀ボタン（またはTAPE REWボタン）を押すと、曲と曲の間の無音部分を探すことにより、曲の頭出しができます。ボタンを押してから頭出しが始まるまでの間、走行方向のプレイ表示が点滅します。
- 頭出しをしている時に再度▶▶ボタン（またはTAPE FFボタン）を押すと早送りになります。◀◀ボタン（またはTAPE REWボタン）を押すと、巻き戻しになります。

⚡ ご注意

頭出し選曲は、曲と曲の間の無音部分（5秒以上）を検出して動作します。したがって、次のようなテープでは正常に動作しないことがあります。

- 曲間に5秒以上の無音部分がないテープ
- 会話などで音が途切れているテープ
- 曲間と間違えるほどの極端にレベルの低い部分のあるテープ（短い静かな部分のあとに大きな音がある場合など）
- フェードイン、フェードアウト録音したテープ

テープを聞く

■ドルビーNRについて

ドルビーNR（ノイズリダクション）システム

テープを再生すると、ヒスノイズ(サーという雑音)が出ます。ドルビーNRは、このノイズを低減するシステムです。

本機は、ドルビーNRのBタイプとCタイプを搭載しています。

- ドルビーNR Bタイプは、一般用として広く定着しています。
- ドルビーNR Cタイプは、広ダイナミックレンジ化の要求に対して開発され、Bタイプに比べさらに大きな雑音低減効果があります。

ドルビーHX PRO

ドルビーHX PROは、音楽信号の中の高域成分に応じて録音バイアス電流を常に最適値にコントロールするシステムです。このシステムによって高域のダイナミックレンジが伸張され、高域成分の多いデジタルソースでもすばらしい録音ができます。この効果はドルビーNRの設定に関係なく得られます。

■リバースモードについて（カセットテープの上側をA面としています。）

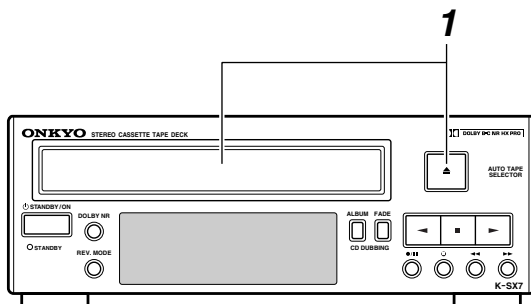
消灯		A面から走行 ストップ 	
		B面から走行 ストップ 	
点灯		A面から走行 「反転」 	<ul style="list-style-type: none"> •再生の場合は、8 往復くり返します。 •録音の場合は、1 往復して停止します。
		B面から走行 「反転」 	<ul style="list-style-type: none"> •再生の場合は、8 往復くり返します。 •録音の場合は、B面のみ録音して停止します。

録音する

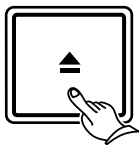
あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

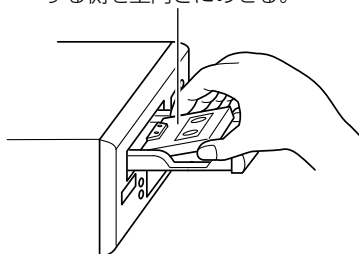
- 録音用テープは誤消去防止用ツメが折れていないものを使用してください。また、リーダーテープ部（録音できない部分）は巻き取っておいてください。
- 録音前に、FRX7/X9との接続およびプレイモード等、ソース側の設定を確認してください。（詳しくは、FR-X7/X9の取扱説明書をご覧ください。）



1




テープ面を奥側にして、録音する側を上向きにのせる。



カセットを入れる

オープン/クローズボタン（▲）を押してカセットトレイを開きます。

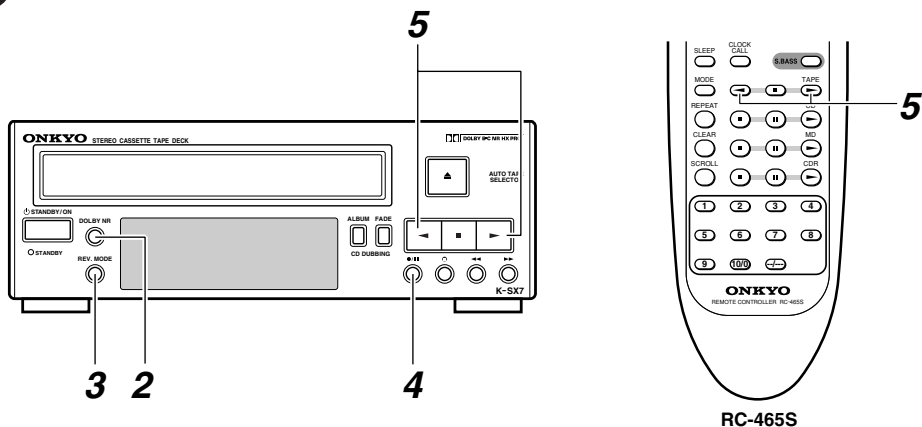
- カセットはテープ面を奥側にして、録音する側を上向きにのせます。
- オープン/クローズボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることもできます。
- カセットを入れるとテープイン表示（) が点灯します。

ご注意

- カセットをのせる方向をまちがえないようにしてください。
- トレイを閉じるときに指をはさまないようにご注意ください。

(次頁へつづく →)

録音する



2

DOLBY NR



ドルビーNRを選ぶ

ドルビーNRボタン(DOLBY NR)を押すたびに、



の順に表示が切り替わります。



原音に忠実な再生をするために、録音時のドルビーNRのタイプをメモしておくとう便利です。詳しくは、「ドルビーNRについて」(20ページ)を参照してください。

3

REV. MODE



リバースモードを選ぶ

リバースモードボタン (REV. MODE) を押すたびに、リバースモード表示が点灯したり、消灯したりします。

- 詳しくは、「リバースモードについて」(20ページ)を参照してください。

4



録音待機状態にする

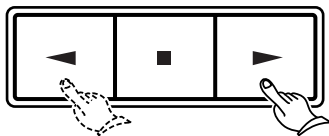
- FR-X7/X9を操作して録音するソースの演奏を始めます。
- 次にレック/ポーズボタン (●/||) を押して、録音待機状態にします。レック表示が点灯します。



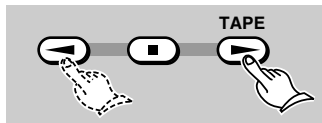
FR-X7/X9から録音する場合は、「CDシンクロ録音について」(30ページ)を参照してください。

リモコンのボタンは  で表示しています。

5



本機



リモコン

録音を始める

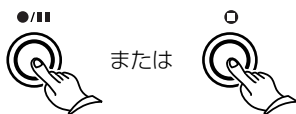
録音したい方向のプレイボタン(◀または▶)を押します。

- プレイ表示が少し明るくなります。

⚡ ご注意

リバース方向から録音する場合、リバースモードの“↺”表示が点灯していても片面のみの録音となります。

■録音を一時停止する



または

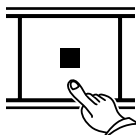
録音を再開するには、▶または◀ボタンを押してください。

録音中にレック/ポーズボタン(●/||)を押すと、録音が一時停止します。プレイ表示が少し暗くなります。

オートスペースについて

録音中または録音待機中にオートスペースボタン(○)を押すと、プレイ表示が点滅しながら約5秒間の無音部分を作ったあと録音待機状態になります。5秒以上の無音部分を作りたいときは押し続けてください。5秒以下にしたいときは、プレイ表示が点滅中にレック/ポーズボタンを押してください。

■録音を中止する



本機



リモコン

録音中にストップボタン(■)を押すと、録音が停止します。

- レック表示が消えます。



オンキョーFRシリーズ(FR-X7/X9, FR-V77, FR-V7, FR-V5, FR-V3)や、INTEC185シリーズ以外のCDプレーヤーやMDレコーダーを使って録音・ダビングする場合は、「録音レベル」についてのご注意(33ページ)を参照してください。

CD ダビング (システム操作)

■CDダビングについて

本機をFR-X7/X9とR1ケーブル接続した場合は、CDからテープに録音するとき、次のような操作を自動的に行います。

- テープの巻き戻し
- A/B両面へのテープ編集

CDダビングには次のモードがあります。

モード	目的
アルバムCDダビング (26~27ページ)	途切れる曲を削除してB面に録音し直します。
フェードアウトCDダビング (26~27ページ)	A面の最後に途切れる曲にフェードアウトをかけてB面に録音し直します。
コンティニアス (連続) CDダビング (28ページ)	2枚以上のCDを使った編集テープを作ります。
巻き戻ししないCDダビング (29ページ)	テープの途中から編集テープを作ります。

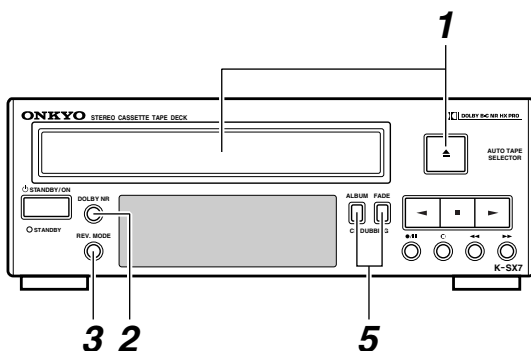


操作前にあらかじめ接続の確認をしてください。**RI**ケーブルとオーディオ用ピンコードが正しく接続されていしないと、CDダビングはできません。

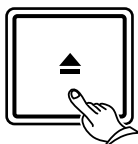
編集動作	
<p>A面で最後まで録音できなかった曲を消去し、改めてB面の1曲目として録音します。 B面で最後まで録音できなかった曲も消去されます。</p>	<p style="text-align: center;">録音方向 ← A面 → 録音方向</p> <p style="text-align: center;">← B面 → 録音方向</p>
<p>A面で最後まで録音できなかった曲を途中でフェードアウト（徐々に音量を小さくし）、改めてB面の1曲目として録音します。 B面で最後まで録音できなかった曲もフェードアウトされます。</p>	<p style="text-align: center;">録音方向 ← A面 → 録音方向</p> <p style="text-align: center;">← B面 → 録音方向</p>
<p>本機またはCDのストップボタン (■) を押して編集動作を止め、CDを入れ替えて本機のCDダビングボタン (CD DUBBING) を押すと、再びCDダビングがスタートします。このとき、巻き戻しはしません。</p>	
<p>ロック/ポーズボタン (●/) を押してからCDダビングボタンを押すと、テープの巻き戻しをせずにCDダビングがスタートします。</p>	

CD ダビング (システム操作)

■アルバム/フェードアウトCDダビング



1



カセットを入れる

手順1から3については「録音する」の(21～22ページ)をごらんください。

ご注意

カセットをのせる方向をまちがわないようにご注意ください。

2



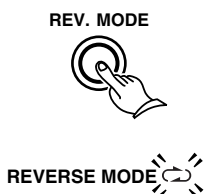
ドルビーNRのタイプを選ぶ

ドルビーNRボタン(DOLBY NR)を押すたびに、



の順に表示が切り替わります。

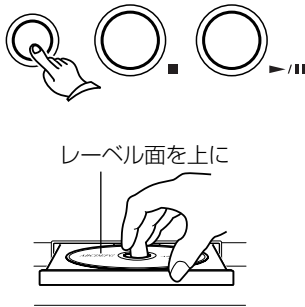
3



リバースモードを選ぶ

リバースモードボタン (REV. MODE) を押すたびに、リバースモード表示が点灯したり、消灯したりします。

4



FR-X7/X9

録音したいCDを入れる



FR-X7/X9側で録音したい曲をメモリーしておく、メモリー曲だけのCDダビングができます。（詳しくは、FR-X7/X9の取扱説明書を参照してください。）

5



CDダビングを始める

アルバムボタン（ALBUM）またはフェードボタン（FADE）を押します。

- 押したボタンの表示とレック表示が点灯します。
- アルバムボタンまたはフェードボタンを押すとテープは片側方向へ巻き戻しを始めます。本機はリーダーテープ部（テープの両端にある透明な録音できない部分）を避けるため、A/B両面の初めの10秒間は無音部分を作ります。本機やFR-X7/X9がこの動作を終えるまで、どのボタンもさわらないでください。
- 無音部分を作っている間、プレイ表示は点滅し、録音が始まると点灯に変わります。

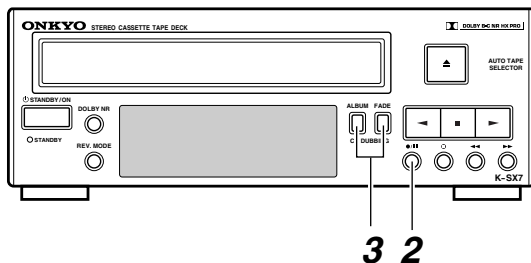
CDダビングを止めるには

本機またはFR-X7/X9のストップボタンを押します。

ご注意

- CDやテープが正しくセットされていないとき、または本機とFR-X7/X9が停止状態でないときは、CDダビング表示が点滅し、編集はスタートしません。
- 1曲の長さがテープの片面に収まらない場合、その曲は消去されず、A面からB面にそのまま続けて録音されます。
- フェードアウトはリーダーテープ部分によって、完全に録音できない場合があります。
- テープ終端の余りが約30秒以下の場合、録音することができません。

■巻き戻ししないCDダビング



1 CDダビングの準備をする

- カセットを入れる
- ドルビーNRのタイプを選ぶ
- リバースモードを選ぶ
- 録音したいCDをセットする

詳しくは、「アルバム/フェードアウトCDダビング」(26～27ページ)をごらんください。

2



本機を録音待機状態にする

ロック/ポーズボタン(●/II)を押します。

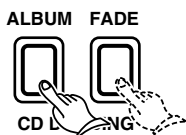
- REC表示が点灯します。



録音面を切り換えるには

ロック/ポーズボタンを押しながら、プレイボタン(▶または◀)を押します。

3



CDダビングを始める

アルバムボタン(ALBUM)またはフェードボタン(FADE)を押します。

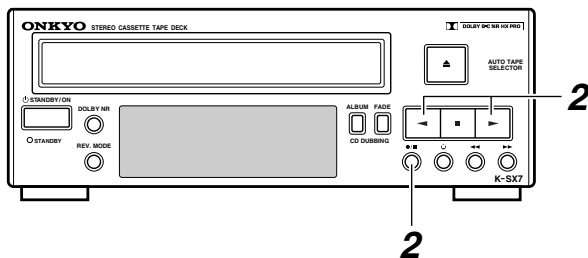
- 押したボタンの表示が点灯します。

テープは巻き戻しをせず、約5秒間の無音部分を作り、録音を始めます。

シンクロ録音（システム操作）

■CDシンクロ録音

- 本機をFR-X7/X9と**RI**ケーブルで接続した場合、本機を録音待機状態にしてからCDの演奏を始めるだけで自動的に本機の録音も始まります。
- ライブ盤やクラシックなどのCDでテープの片面に録音しきれないような長い曲や、テープの途中から録音したいときなどはシンクロ録音してください。

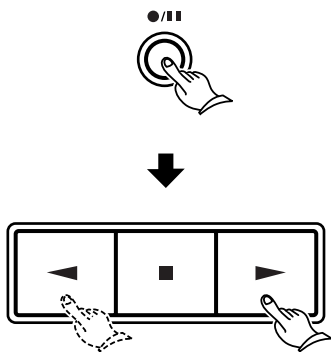


1 録音準備をする

- カセットを入れる
- ドルビーNRのタイプを選ぶ
- リバースモードを選ぶ
- 録音したいCDをセットする

詳しくは「録音する」の手順1～3（21～22ページ）を参照してください。

2



録音待機状態にする

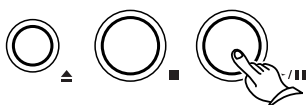
レック/ポーズボタン（●/||）を押しながらプレイボタン（▶または◀）を押してテープの走行方向を決めます。

- レック表示とプレイ表示が点灯します。

ご注意

◀方向から録音する場合、リバースモードの“↻”表示が点灯していても片面のみの録音となります。

3



FR-X7/X9

CDの演奏を始める

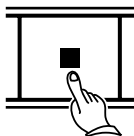
FR-X7/X9のCD▶/■ボタンを押すと録音が始まります。

- プレイ表示が少し明るくなります。



FR-X7/X9側で録音したい曲をメモリーしておく、メモリー曲だけのCDシンクロ録音ができます。（詳しくはFR-X7/X9の取扱説明書を参照してください。）

■CDシンクロ録音をやめるには



ストップボタン（■）を押します。

- レック表示が消えます。



ストップボタン（■）を押すと本機は停止しますが、CDの再生はそのまま続きます。

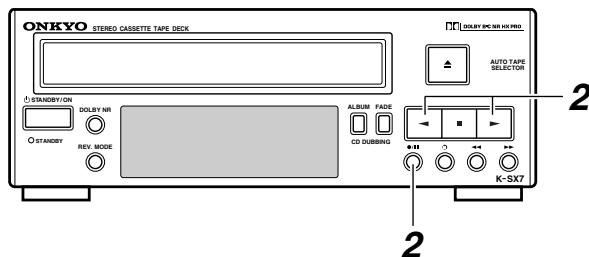
CDの再生を止めるには、FR-X7/X9のCD■ボタンを押してください。

また、本機のストップボタン（■）を押す前に、FR-X7/X9のCD■ボタンを押すと、本機は録音待機状態になります。

シンクロ録音 (システム操作)

■MDシンクロ録音

- 本機をFR-X7/X9と**R**Iケーブルで接続した場合、本機を録音待機状態にしてからMDの再生を始めるだけで自動的に本機の録音も始まります。

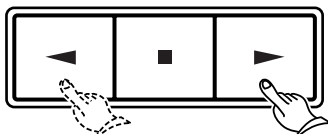


1 録音準備をする

- カセットを入れる
- ドルビーNRのタイプを選ぶ
- リバースモードを選ぶ
- 録音したいMDをセットする

詳しくは「録音する」の手順1～3 (21～22ページ)を参照してください。

2



録音待機状態にする

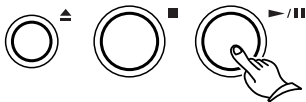
レック/ポーズボタン (●/||) を押しながらプレイボタン (▶または◀) を押してテープの走行方向を決めます。

- レック表示とプレイ表示が点灯します。

ご注意

◀方向から録音する場合、リバースモードの“↻”表示が点灯していても片面のみの録音となります。

3



FR-X7/X9

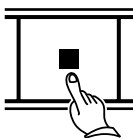
MDの演奏を始める

FR-X7/X9のMD▶/■ボタンを押すと録音が始まります。



FR-X7/X9側で録音したい曲をメモリーしておく、メモリー曲だけのMDシンクロ録音ができます。（詳しくはFR-X7/X9の取扱説明書を参照してください。）

■MDシンクロ録音をやめるには



ストップボタン (■) を押します。

- レック表示が消えます。



ストップボタン (■) を押すと本機は停止しますが、MDの再生はそのまま続きます。

MDの再生を止めるには、FR-X7/X9のMD■ボタンを押してください。

また、本機のストップボタン (■) を押す前に、FR-X7/X9のMD■ボタンを押すと、本機は録音待機状態になります。

■録音レベルについてのご注意

本機をFRシリーズ (FR-X7/X9、FR-V77、FR-V7、FR-V5、FR-V3)、INTEC185シリーズ以外のCDプレーヤーやMDレコーダーからダビングする場合、録音レベルが少し高くなります。

その場合、スタンバイ/オンボタンを押して本機をいったんスタンバイ状態に戻し (スタンバイインジケータが点灯)、ドルビーNRボタンと巻き戻しボタン (◀◀) を同時に押すと、適正な録音レベルに設定され、⏪、PLAY▶、●REC表示が点灯します。

このとき、チューナーまたはカセットデッキの音を録音すると、逆に録音レベルが低くなります。この場合に元の録音レベルに戻すには、本機をスタンバイ状態にしたあと、ドルビーNRボタンと早送りボタン (▶▶) を同時に押してください。DOLBY BとC、TAPE IN、ALBUM、FADE表示が点灯します。あるいは、電源プラグをコンセントから抜いて再度コンセントに差し込んで元の録音レベルに戻すことができます。

故障？と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名(K-SX7)」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	●電源プラグの差し込みが不完全になっている。	●電源プラグを電源コンセントに確実に差し込み直してください。(14ページ参照)
録音操作をしても動作しない。	●カセットテープの誤消去防止用ツメが折れている。	●誤消去防止用ツメの部分にセロハンテープを貼ってください。(9ページ参照)
音がかすれたり、左右の音のバランスがくずれる。	●ヘッドにゴミが付着している。 ●テープが片伸びしている。	●ヘッドを清掃してください。(10ページ参照) ●テープを交換してください。
ザーザーと雑音が多い。	●ヘッドが磁化されている。 ●雑音の多いテープを使用している。	●消磁してください。(10ページ参照) ●テープを交換してください。
音がひずむ。	●録音したテープにひずみがある。	●録音したテープ自体のひずみでないか別のテープと替えてテストしてみてください。
再生時にブーンというハム音が入る。	●接続コードの差し込み不完全。 ●外部(テレビ等)からの誘導雑音。	●確実に接続し直してください。(14ページ参照) ●雑音源(テレビ等)より離してください。または雑音源の電源を切ってください。
音がワウワウとうなったり、音飛びがおこる。	●ヘッド、ピンチローラー、キャプスタンの汚れ。 ●テープが緩付きになって堅く巻かれている。	●清掃してください。(10ページ参照) ●早送りで巻き直してください。
高音が強調される。	●ドルビーNRを使用して録音しているテープをドルビーNRを使用せずに再生している。	●ドルビーNR B、またはNR Cにして再生してください。(20ページ参照)
高音が出ない。	●ヘッドが汚れている。 ●ドルビーNRを使用せずに録音したテープをドルビーNR BまたはNR Cで再生している。	●ヘッドを清掃してください。(10ページ参照) ●ドルビーNRを使用せずに再生してください。(20ページ参照)
選曲ができない。	●テープの無音部分が短いか、ノイズが多くて選曲できない。	●(19ページ参照)

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

ご注意 製品の故障により、正常に録音ができなかったことによって生じた損害(CDのレンタル料等)については保証対象になりませんので、大事な録音をするときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

型 式	：ステレオカセットテープデッキ ドルビー NR システム内蔵	入 力 感 度	：500mV
トラック型式	：4トラック 2チャンネルステレオ	入力インピーダンス	：50k Ω
録音方法	：ACバイアス	出力ジャック	：2
消去方法	：AC消去	基準出力	：500mV
テープ速度	：4.8cm/sec	負荷インピーダンス	：50k Ω 以上
ワウ・フラッター	：0.1% (WRMS), $\pm 0.2\%$ (W PEAK)	モーター	：DCサーボモーター 1個
周波数特性	：30~13000Hz ± 3 dB※ ノーマル 30~14000Hz ± 3 dB※ ハイ 30~15000Hz ± 3 dB※ メタル	ヘッド	：ハードパーマロイヘッド 1個 (録音、再生) フェライトヘッド 1個 (消去)
S N 比	：54dB (3% THD レベル, メタル, ドルビー NR OUT) Btype INで10dB (5kHz)向上 Ctype INで20dB (5kHz)向上	電 源	：AC100V、50/60Hz
入力ジャック	：2	消費電力	：10W
		外形寸法	：205×76×273mm (幅×高さ×奥行)
		質 量	：2.6kg

※印は(社)電子情報技術産業協会(JEITA)(旧(社)日本電子機械工業会(EIAJ))規格に定められた測定方法によります。仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われる。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(K-SX7)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万が一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様 ご相談窓口	カスタマーセンター 受付 9:30~17:30 (土日祝、弊社休日除く)
	■カタログのご請求、製品についてのご相談
	*e-mail: ホームシアター/オーディオ製品 → customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品 → mmcadmin@onkyo.co.jp
	*TEL: ナビダイヤル0570-01-8111 (全国どこからでも市内料金で通話いただけます) または072-831-8111 (携帯電話、PHSから)へどうぞ。 *FAX: 072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→<http://www.onkyo.co.jp>

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→<http://www.e-onkyo.com>

修理窓口 修理のご依頼は取扱説明書の「故障?と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター TEL.072-831-7305 FAX.072-831-8124
〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612 FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北28条西5-1-28 トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571 FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5 第二丸昌ビル 1F
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307 FAX 028-634-4308 〒320-0831 栃木県宇都宮市新町2-7-7
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612 FAX 048-651-9137 〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2 高安ビル 1F
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030 FAX 0426-36-9312 〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342 FAX 045-312-6603 〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13 共益ビル5F
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229 FAX 052-772-1331 〒465-0013 名古屋市名東区社口1丁目1001番
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620 FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎2丁目1番地49号
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315 FAX 082-262-6571 〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662 FAX 087-868-5672 〒760-0079 高松市松縄町44-8 西原ビル1F
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357 FAX 092-418-1358 〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19 みなみビル202

2001年6月現在 お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F-1

ONKYO

オンキヨー株式会社

本社 大阪府寝屋川市日新町2-1 〒572-8540



製品の故障や修理についてのお問い合わせ先:

お買い上げの販売店もしくは、「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

●東京サービスセンター ☎ 03(3861)8121 ●大阪サービスセンター ☎ 06(6576)7620